環境への配慮

重点項目

昭和産業グループは、世界中から多種多量の穀物を調達し、多くのエネルギーや水などを使用して、人々の生活に欠かせない「食」を提供しています。持続可能な資源の調達による持続可能な生産活動を行うことが当社グループの重要課題であり、そのために地球環境の保全は極めて重要で、私たちには大きな責任があります。環境配慮を当社グループにとっての大きな使命ととらえ、推進していきます。

重要課題と主な取り組み

重要課題	主な取り組み	関連するSDGs
1.持続可能な生産活動	①CO_2排出量削減に向けた取り組み ②食品ロスの削減 ③水使用量削減をはじめとする資源活用の強化	
2.持続可能な資源活用	①持続可能な原料調達の推進 ②穀物など資源の高度・有効活用の推進	

1.持続可能な生産活動

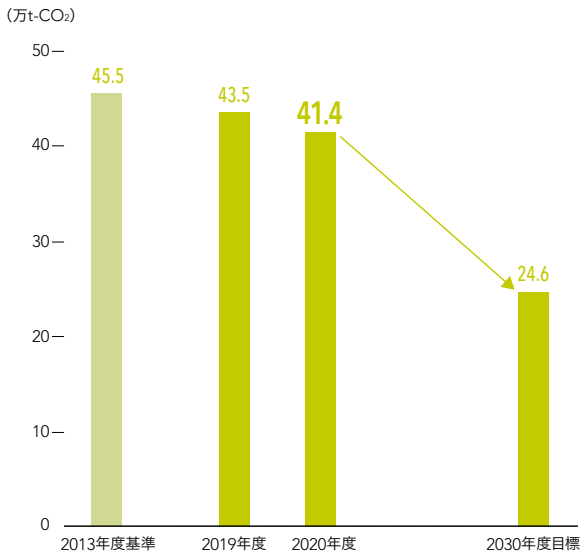
①CO_2排出量削減に向けた取り組み

気候変動により、水害や干ばつなどのリスクがあり、全世界の穀物の安定供給に支障を来す可能性があります。そのためCO_2排出総量の削減の取り組みを継続し、2020年度のCO_2排出総量は、生産工程の省エネ活動などにより、前年度に比べて約2万1千t削減しました。一方、2020年は、新たにボーソー油脂株式会社やサンエイ糖化株式会社など7社が当社グループとなったことにより、当社グループ全体のCO_2排出総量は、41万4千tと増加することとなりました。

鹿島工場のコージェネレーション設備の燃料を、石炭から都市ガスに変更する工事や、バイオマスボイラーの増強更新をはじめとするユーティリティ設備などの改善、また、これまでの生産工程の省エネ活動のノウハウを新たなグループ会社に応用することで、CO_2排出総量の削減に向けた生産活動に取り組んでいきます。

2021年、政府が掲げた新中長期目標の「2030年度までに温室効果ガス排出量を2013年度比で46%削減」という新たな目標に向けて、TCFDへの賛同を見据え、環境管理委員会傘下にCO_2排出量削減部会を設置して推進します。エネルギー消費原単位を前年度比1%の削減という生産工程などでの省エネ活動の推進や、気候変動に関するリスクと機会の分析に着手して、再生エネルギーの利用拡大の検討や、当社グループとしての目標である2013年度比46%の削減に向け、具体的で、実効性・実現性のある施策を行いCO_2排出量削減に取り組んでいきます。

CO_2排出量の推移（昭和産業グループ）



※ CO_2排出量の算出には、各年度直近の電気事業者別の基礎排出係数を使用しています。
※ 2013年度基準排出量には、2014～2020年度にグループ会社となった11社（セントラル製粉株式会社、ガーデンベーカリー株式会社、タワーベーカリー株式会社、スターベーカリー株式会社、ボーソー油脂株式会社、長岡油糧株式会社、クミアイ油脂株式会社、ムサシ油脂株式会社、南日本コメ油株式会社、東京油脂工業株式会社、サンエイ糖化株式会社）の2013年度排出量を含みます。

②食品ロスの削減

当社では、食品ロス（製品廃棄）の発生について、2016～2018年度の3年間の平均値を基準として、2022年度には食品ロスを5%以上削減することを目標に活動を始めました。2020年度は目標に対して5%の削減という結果でした。引き続き食品ロス削減に向けて、需給管理や在庫管理についての取り組みを進めていきます。

環境管理委員会傘下に、食品ロス削減部会を設置して、原料供給から加工、食品製造という一貫した体制を有する当社グループ全体での食品ロス削減に取り組みます。当社単体での食品ロス削減目標（2022年度までに5%以上削減）の達成に向けた取り組みに加え、グループ内の加工食品およびベーカリー事業において、加工工程を含めた食品ロス削減が課題となっています。食品ロスの発生状況を調査し、削減目標をあらためて設定し、生産から流通までの食品ロスの発生量削減の取り組みを進めていきます。

また、賞味期限の見直しによる食品ロス発生削減につながる製品の供給、商品提案に向け、研究開発を行います。

③水使用量削減をはじめとする資源活用の強化

環境管理委員会傘下に水使用量削減部会を設置して、当社グループでの水使用状況（現状）を調査し、当社グループ全体で取り組む具体的な目標を設定して省水に取り組みます。

循環型社会を実現するために、プラスチックなどの容器包装資材の3R（Reduce、Reuse、Recycle）は大切なキーワードであり、なかでも包装のプラスチック使用量をReduceするため、包装技術の向上による樹脂使用量の最適化への取り組みを行い、適正な削減を継続して推進しています。これまで食用油のボトルの軽量化や、業務用パスタ製品のフィルム構成の変更による薄肉化への取り組みなど、容器包装に使用するプラスチック削減を進めてきました。食用油1,000gのボトルでは約11%軽量化し、一部の業務用パスタ製品（3kg入り、4kg入り）の包装フィルムの厚みについて、約12%の削減を実現しており、順次対象銘柄を拡げています。今後も継続して包装資材の見直しを行い、容器包装としてのプラスチック使用量削減に取り組んでいきます。

容器フィルムの厚みを約12%削減

ボトルを約11%軽量化

2.持続可能な資源活用

①持続可能な原料調達の推進

安全な原料の調達・利用のために、当社の原料調達方針をサプライヤーに理解していただき、一体となって管理、実施していただくという協働により、課題解決に取り組んでいます。また、サプライヤーには公平、公正な取引を行い、サプライヤーの選定には品質や価格などのほか、法令を遵守してCSRの推進を実践していきます。

②穀物など資源の高度・有効活用の推進

ごみ袋の原料の一部に当社バイオマスを20%使用した「バイオマスゴミ袋」の製品化を進めています。開発品は、石油由来プラスチックの使用量を削減し、CO_2排出量を抑えた設計となっています。これまでに千葉県船橋市役所本庁舎や、当社がオフィシャルパートナーを務める鹿島アントラーズのホームスタジアム（茨城県立カシマサッカースタジアム）などで、実際に試用するなどの実証実験を行い、製品化に向けて抽出された課題を解決すべく、研究を進めています。

油脂製造工程で発生するソーダ油滓（副産物）を酸分解したダーク油を燃料とするボイラーを鹿島工場に導入し、運用を開始しました。また、当社グループとなったボーソー油脂株式会社においても、すでにソーダ油滓のダーク油化を実施していることから、燃焼ボイラーの増設を検討するなど、グループ全体での副産物の利用推進の取り組みを進めています。

バイオマスゴミ袋